

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7598751号
(P7598751)

(45)発行日 令和6年12月12日(2024.12.12)

(24)登録日 令和6年12月4日(2024.12.4)

(51)国際特許分類	F I
E 0 6 B 3/70 (2006.01)	E 0 6 B 3/70 D
E 0 5 B 47/00 (2006.01)	E 0 5 B 47/00 G
E 0 6 B 3/30 (2006.01)	E 0 6 B 3/30
E 0 6 B 3/82 (2006.01)	E 0 6 B 3/82

請求項の数 5 (全11頁)

(21)出願番号	特願2020-208399(P2020-208399)	(73)特許権者	504163612 株式会社 L I X I L
(22)出願日	令和2年12月16日(2020.12.16)		東京都品川区西品川一丁目1番1号 大
(65)公開番号	特開2022-95209(P2022-95209A)		崎ガーデンタワー
(43)公開日	令和4年6月28日(2022.6.28)	(74)代理人	100106002 弁理士 正林 真之
審査請求日	令和5年10月4日(2023.10.4)	(74)代理人	100165157 弁理士 芝 哲央
		(74)代理人	100126000 弁理士 岩池 満
		(74)代理人	100160794 弁理士 星野 寛明
		(72)発明者	林田 亮太 東京都江東区大島二丁目1番1号 株式 会社 L I X I L 内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 玄関ドア

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

建物躯体の開口部に設けられるドア枠の内側に開閉可能に納められるドア本体と、
前記ドア本体の室外側面に、接着層を介して接着されるガラス板と、
前記ガラス板の戸先側表面から戸先側小口面を覆って、前記ドア本体の戸先側見込み面に
固定される戸先側縁部材と、を備え、
前記ガラス板の前記戸先側小口面は、前記ドア本体の前記戸先側見込み面よりも吊元側に
配置され、
前記戸先側縁部材は、前記ガラス板の戸先側縁部の室外表面に当接する表面当接板部と、
前記表面当接板部に一体に連設され、前記ドア枠に重なるように前記ドア枠に向けて延出
する延出板部と、を有し、
前記表面当接板部と前記延出板部とは、面一状に連続している、玄関ドア。

【請求項2】

前記ガラス板は、2枚のガラス材の間に意匠フィルムを積層した合わせガラスによって
構成される、請求項1に記載の玄関ドア。

【請求項3】

前記ガラス板の上側表面から上側小口面を覆って、前記ドア本体の上側見込み面に固定
される上側縁部材と、前記ガラス板の下側表面から下側小口面を覆って、前記ドア本体の
下側見込み面に固定される下側縁部材と、を備える、請求項1又は2に記載の玄関ドア。

【請求項4】

前記ドア本体の吊元側に配置されて前記ガラス板の吊元側小口面を覆う吊元側縁部材を備え、

前記吊元側縁部材は、前記ガラス板の表面に当接する表面当接部と、前記ガラス板の裏面に当接し、前記表面当接部との間で前記ガラス板を挟持する裏面当接部と、を有し、

前記裏面当接部は、前記接着層と同一厚みを有する、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の玄関ドア。

【請求項 5】

前記ドア本体は、シリンダーを有する電気錠と、前記シリンダーを覆うシリンダーカバーと、を有し、

前記ガラス板は、前記シリンダーの外径よりも大径の取付穴を有し、

前記シリンダーは、前記取付穴を通して前記ドア本体の前記室外側面に取り付けられ、

前記取付穴は、前記シリンダーと共に前記シリンダーカバーによって覆われている、請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の玄関ドア。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本開示は、玄関ドアに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、ドア本体の表面に、アルミの押出し成形などによって長尺の部材に形成された複数の意匠部材を、意匠部材を貫通する複数の意匠部材固定部によって、ドア本体に固定したドアが知られている（例えば、特許文献 1 参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開 2018 - 3414 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

特許文献 1 に記載のドアでは、意匠部材が、複数の意匠部材固定部によってドア表面に固定されるため、意匠部材の取付工程が煩雑である。しかも、意匠部材固定部は、ドア表面に突出するため目立ち易い。さらに、アルミの押出し成形などの部材は、表面にラッピングシートを設けることによって意匠性を付与しているため、金属の質感が表面に表れ易い。そのため、従来のドアは、意匠性向上の観点から改善の余地がある。

【0005】

したがって、発明者は、意匠性をより向上させることができる玄関ドアを提供する、という課題を見出した。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本開示に係る玄関ドアは、建物躯体の開口部に設けられるドア枠の内側に開閉可能に納められるドア本体と、前記ドア本体の室外側面に、接着層を介して接着されるガラス板と、を備える。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図 1】玄関ドアを示す正面図である。

【図 2】図 1 中の A - A 線に沿う縦断面図である。

【図 3】図 1 中の B - B 線に沿う横断面図である。

【図 4】玄関ドアの上側を拡大して示す縦断面図である。

【図 5】玄関ドアの下側を拡大して示す縦断面図である。

【図 6】玄関ドアの戸先側を拡大して示す横断面図である。

10

20

30

40

50

【図 7】玄関ドアの吊元側を拡大して示す横断面図である。

【図 8】ガラス板の断面図である。

【図 9】玄関ドアの吊元側縁部材の他の実施形態を示す拡大横断面図である。

【図 10】玄関ドアのハンドルを拡大して示す正面図である。

【図 11】玄関ドアのハンドルを拡大して示す縦断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0008】

以下、本開示の実施形態について図面を参照して詳細に説明する。図 1～図 3 に示すように、玄関ドア 1 は、建物躯体 100 の縦長矩形形状の開口部 101 に設けられる金属製のドア枠 2 の内側に、室内外方向に開閉可能に設けられる。

10

【0009】

ドア枠 2 は、金属型材によって形成され、開口部 101 の内周に沿って取り付けられている。詳しくは、ドア枠 2 は、開口部 101 の上側の内周を横方向に延びる上ドア枠 21 と、開口部 101 の下側の内周を横方向に延びる下ドア枠 22 と、開口部 101 の左右の内周を縦方向に延びる戸先側縦ドア枠 23 及び吊元側縦ドア枠 24 と、によって矩形に枠組みされている。上ドア枠 21、戸先側縦ドア枠 23 及び吊元側縦ドア枠 24 は、それぞれ中空状の角型に形成されている。

【0010】

建物躯体 100 の開口部 101 の周囲の室外表面には、陶製の外装用タイル 200 が接着材等によって設けられている。外装用タイル 200 は、上ドア枠 21、戸先側縦ドア枠 23 及び吊元側縦ドア枠 24 の室外側面 21a、23a、24a をそれぞれ覆うように設けられ、玄関ドア 1 に近接している。開口部 101 の周囲の外装用タイル 200 は陶製に限定されず、金属、コンクリート等であってもよい。図 1 は、室外側から見た玄関ドア 1 を示す。各図において、X1 は玄関ドア 1 の室外側を示し、X2 は玄関ドア 1 の室内側を示す。

20

【0011】

玄関ドア 1 は、ドア枠 2 の内側に納められるドア本体 3 と、ドア本体 3 の室外側面に設けられる意匠材としてのガラス板 4 と、を有する。ドア本体 3 は、吊元側縦ドア枠 24 に、丁番 35 によって開閉可能に取り付けられている。

【0012】

ドア本体 3 は、図 2 及び図 3 に示すように、ドア本体 3 の四周に亘って矩形に枠組みされた芯材 31 と、芯材 31 の室外側に設けられる金属製の室外板部 32 と、芯材 31 の室内側に設けられる金属製の室内板部 33 と、芯材 31、室外板部 32 及び室内板部 33 で囲まれる空間に設けられる断熱材 34 と、を有する。

30

【0013】

本実施形態の芯材 31 は、金属製芯材 311 と、金属製芯材 311 の外周側を覆うように設けられる樹脂製芯材 312 と、によって構成される。

【0014】

金属製芯材 311 は、図 4～図 7 に示すように、ドア本体 3 の上端を横方向に延びる上金属芯材 311a と、ドア本体 3 の下端を横方向に延びる下金属芯材 311b と、ドア本体 3 の戸先側端を縦方向に延びる戸先金属芯材 311c と、ドア本体 3 の吊元側端を縦方向に延びる吊元金属芯材 311d と、を含んで構成される。これらの金属芯材 311a、311b、311c、311d は、いずれもコ字型に形成され、外周側が平坦な見込み面を形成するように矩形に枠組みされている。

40

【0015】

樹脂製芯材 312 は、図 4～図 7 に示すように、ドア本体 3 の上端を横方向に延びる上樹脂芯材 312a と、ドア本体 3 の下端を横方向に延びる下樹脂芯材 312b と、ドア本体 3 の吊元側端を縦方向に延びる吊元樹脂芯材 312d と、を含んで構成される。これらの上樹脂芯材 312a、下樹脂芯材 312b 及び吊元樹脂芯材 312d は、いずれもコ字型に形成され、それぞれ上金属芯材 311a、下金属芯材 311b 及び吊元金属芯材 311

50

1 d の外面側を覆うように密着し、それぞれ取付ねじ S C 1、S C 2、S C 4 によって各金属芯材 3 1 1 a、3 1 1 b、3 1 1 d に固定されている。丁番 3 5 は、図 3 に示すように、ドア本体 3 の吊元樹脂芯材 3 1 2 d と、ドア枠 2 の吊元側縦ドア枠 2 4 とに亘って取り付けられている。

【0016】

ドア本体 3 の戸先金属芯材 3 1 1 c には、このようなコ字型の樹脂製芯材が設けられていない。その代りに、図 3 及び図 6 に示すように、ドア本体 3 の戸先金属芯材 3 1 1 c の室外側面及び室内側面には、それぞれ樹脂製カバー材 3 1 3 a、3 1 3 b が個別に取り付けられている。

【0017】

このように、玄関ドア 1 は、断熱材 3 4 を有することによる断熱性能及び防露性能に加えて、ドア本体 3 の四周に亘る金属製芯材 3 1 1 の外面側に、樹脂製芯材 3 1 2 及び樹脂製カバー材 3 1 3 a、3 1 3 b が設けられることによる断熱性能及び防露性能を備えるため、断熱性能及び防露性能により一層優れる。

【0018】

ガラス板 4 は、図 2 ~ 図 7 に示すように、ドア本体 3 の室外側面を構成する室外板部 3 2 の全面に亘る大きさを有し、接着層 5 によって室外板部 3 2 の表面に接着されている。具体的には、本実施形態のガラス板 4 は、ドア本体 3 の室外板部 3 2 の上端から下端に亘るように接着層 5 を介して接着されている。接着層 5 は、ガラス板 4 の裏面と室外板部 3 2 の表面との少なくともいずれか一方に塗布された接着剤によって構成されてもよい、両面接着テープによって構成されてもよい。本実施形態のガラス板 4 は、ドア本体 3 の室外側面の上端から下端に亘る全面を実質的に覆う大きさを有する。

【0019】

このように、ガラス板 4 は、接着層 5 によってドア本体 3 に接着されることによって固定される。そのため、従来のように、ガラス板 4 を固定するために表面に突出する固定部材を使用する必要がない。しかも、玄関ドア 1 の表面の質感は、ガラス板 4 そのものによって発現されるため、玄関ドア 1 は、ガラス板 4 が持つ質感による高い意匠性を備える。さらに、玄関ドア 1 の周囲との質感の相違によって、玄関ドア 1 のガラス板 4 がアクセントとなり、玄関ドア 1 のみならず建物の意匠性も向上する。

【0020】

本実施形態のガラス板 4 は、図 8 に示すように、室外側ガラス材 4 0 1 と室内側ガラス材 4 0 2 の 2 枚のガラス材の間に、意匠フィルム 4 0 3 を積層した合わせガラスによって構成される。これによって、玄関ドア 1 の意匠性がさらに向上する。意匠フィルム 4 0 3 は、例えば、ラッピングシートによって構成される。意匠フィルム 4 0 3 には、適宜の図柄もしくは模様が形成されてもよい。室外側ガラス材 4 0 1 は、意匠フィルム 4 0 3 を室外側から視認可能な透明もしくは半透明のガラス材によって構成される。

【0021】

ガラス板 4 の四辺には、図 4 ~ 図 7 に示すように、それぞれガラス板 4 の小口面 4 1 a、4 2 a、4 3 a、4 4 a を覆う上側縁部材 6、下側縁部材 7、戸先側縁部材 8 及び吊元側縁部材 9 がそれぞれ設けられている。これによって、ガラス板 4 の小口面 4 1 a、4 2 a、4 3 a、4 4 a が保護されるため、損傷が抑制され、ガラス板 4 の耐久性が向上する。

【0022】

上側縁部材 6 は、図 2 及び図 4 に示すように、表面当接板部 6 1 と取付板部 6 2 とからなる薄板状の L 型の金属製金具によって構成される。上側縁部材 6 は、ドア本体 3 の幅方向のほぼ全長に亘って延びている。

【0023】

表面当接板部 6 1 は、ガラス板 4 の上側表面、具体的には、ガラス板 4 の上側縁部の表面 4 1 b に当接する。取付板部 6 2 は、表面当接板部 6 1 の上端に一体に連設され、小口面 4 1 a を覆って、室内側に向けて延びている。

【0024】

10

20

30

40

50

取付板部 6 2 は、取付ねじ S C 1 によって、ドア本体 3 の上側の見込み面である上樹脂芯材 3 1 2 a の表面に固定される。これによって、上側縁部材 6 は、ドア本体 3 に固定される。

【 0 0 2 5 】

上側縁部材 6 は、表面当接板部 6 1 と取付板部 6 2 とによって L 型に形成されるため、小口面 4 1 a を覆って保護する機能に加えて、表面当接板部 6 1 によってガラス板 4 の上側縁部の表面 4 1 b を係止して固定する機能も有する。そのため、上側縁部材 6 は、ガラス板 4 の小口面 4 1 a の損傷を防止するとともに、ガラス板 4 の上側をドア本体 3 に固定して、ドア本体 3 からのガラス板 4 の上側の剥がれを防止する。

【 0 0 2 6 】

下側縁部材 7 は、図 2 及び図 5 に示すように、表面当接板部 7 1 と取付板部 7 2 とからなる薄板状の L 型の金属製金具によって構成される。下側縁部材 7 は、ドア本体 3 の幅方向のほぼ全長に亘って延びている。

【 0 0 2 7 】

表面当接板部 7 1 は、ガラス板 4 の下側表面、具体的には、ガラス板 4 の下側縁部の表面 4 2 b に当接する。

【 0 0 2 8 】

取付板部 7 2 は、表面当接板部 7 1 の下端に一体に連設され、小口面 4 2 a を覆って、室内側に向けてドア本体 3 の見込み方向に延びている。取付板部 7 2 は、取付ねじ S C 2 によって、ドア本体 3 の下側の見込み面である下樹脂芯材 3 1 2 b の表面に固定される。これによって、下側縁部材 7 は、ドア本体 3 に固定される。

【 0 0 2 9 】

下側縁部材 7 は、表面当接板部 7 1 と取付板部 7 2 とによって L 型に形成されるため、小口面 4 2 a を覆って保護する機能に加えて、表面当接板部 7 1 によってガラス板 4 の下側縁部の表面 4 2 b を係止して固定する機能も有する。そのため、下側縁部材 7 は、上側縁部材 6 と同様に、ガラス板 4 の小口面 4 2 a の損傷を防止するとともに、ガラス板 4 の下側をドア本体 3 に固定して、ドア本体 3 からのガラス板 4 の下側の剥がれを防止する。

【 0 0 3 0 】

戸先側縁部材 8 は、図 3 及び図 6 に示すように、表面当接板部 8 1 と延出板部 8 2 と脚板部 8 3 と取付板部 8 4 とからなる薄板状の金属製金具によって構成される。戸先側縁部材 8 は、ドア本体 3 の高さ方向のほぼ全長に亘って延びている。

【 0 0 3 1 】

表面当接板部 8 1 は、ガラス板 4 の戸先側表面、具体的には、ガラス板 4 の戸先側縁部の表面 4 3 b に当接する。

【 0 0 3 2 】

延出板部 8 2 は、表面当接板部 8 1 に一体に連設され、戸先側縦ドア枠 2 3 に重なるように、戸先側縦ドア枠 2 3 に向けて、表面当接板部 8 1 と面一状に延出している。

【 0 0 3 3 】

図 3 に示すように、戸先側縦ドア枠 2 3 は、室外側面 2 3 a のドア本体 3 側の隅角部に、室内側に向けて凹むように設けられた段部 2 3 b を有する。延出板部 8 2 は、表面当接板部 8 1 から戸先側縦ドア枠 2 3 の段部 2 3 b に向けて延出し、この段部 2 3 b 内に収容されている。これによって、戸先側縁部材 8 の延出板部 8 2 は、戸先側縦ドア枠 2 3 に重なって配置される。延出板部 8 2 の先端には、室内側に向けて突出する封止片 8 2 1 が設けられている。封止片 8 2 1 は、室外側から段部 2 3 b に当接することによって、玄関ドア 1 と戸先側縦ドア枠 2 3 との間を封止する。

【 0 0 3 4 】

脚板部 8 3 は、表面当接板部 8 1 の裏面に一体に連設され、小口面 4 3 a を覆って室内側に向けて延びている。脚板部 8 3 の先端は、室外側の樹脂製カバー材 3 1 2 c 1 の表面に当接している。

【 0 0 3 5 】

10

20

30

40

50

取付板部 8 4 は、延出板部 8 2 から室内側に向けてドア本体 3 の見込み方向に延びている。取付板部 8 4 は、取付ねじ S C 3 によって、ドア本体 3 の戸先側の見込み面である戸先金属芯材 3 1 1 c の表面に固定される。これによって、戸先側縁部材 8 は、ドア本体 3 に固定される。

【 0 0 3 6 】

戸先側縁部材 8 は、表面当接板部 8 1、延出板部 8 2 及び取付板部 8 4 によって T 型に形成されるため、小口面 4 3 a を覆って保護する機能に加えて、表面当接板部 8 1 によってガラス板 4 の戸先側縁部の表面 4 3 b を係止して固定する機能も有する。そのため、戸先側縁部材 8 は、上側縁部材 6 及び下側縁部材 7 と同様に、ガラス板 4 の小口面 4 3 a の損傷を防止するとともに、ガラス板 4 の戸先側をドア本体 3 に固定して、ドア本体 3 から
10
のガラス板 4 の戸先側の剥がれを防止する。しかも、表面当接板部 8 1 と延出板部 8 2 とは面一状に設けられるため、玄関ドア 1 の戸先側を室外側から目視した際に、戸先側縁部材 8 が大きく突出して視認されることはない。そのため、玄関ドア 1 の意匠性が損なわれることはない。

【 0 0 3 7 】

吊元側縁部材 9 は、図 3 及び図 7 に示すように、ガラス板 4 の吊元側を表裏から挟んで小口面 4 4 a を覆う薄板状のコ字型の金属製金具によって構成される。吊元側縁部材 9 は、ドア本体 3 の高さ方向のほぼ全長に亘って延びている。詳しくは、吊元側縁部材 9 は、ガラス板 4 の吊元側縁部の表面 4 4 b に当接する表面当接板部 9 1 と、ガラス板 4 の吊元側縁部の裏面 4 4 c に当接する裏面当接板部 9 2 と、小口面 4 4 a を覆って表面当接板部
20
9 1 と裏面当接板部 9 2 とを連結する連結板部 9 3 とからなる。吊元側縁部材 9 は、連結板部 9 3 の内面において、例えば両面接着テープ 9 4 によって、小口面 4 4 a に接着されて固定されている。

【 0 0 3 8 】

裏面当接板部 9 2 は、接着層 5 と同一厚みを有している。そのため、裏面当接板部 9 2 が、接着層 5 によるガラス板 4 の固定に影響を与えるおそれはない。ガラス板 4 の吊元側の裏面は、裏面当接板部 9 2 によって支持されるため、ガラス板 4 の吊元側の固定状態も安定する。

【 0 0 3 9 】

このように、一般に損傷し易い部位であるガラス板 4 の小口面 4 1 a , 4 2 a , 4 3 a , 4 4 a が、上側縁部材 6、下側縁部材 7、戸先側縁部材 8 及び吊元側縁部材 9 によってそれぞれ保護されるため、ガラス板 4 の損傷が長期に亘って維持され、耐久性が向上する。上側縁部材 6、下側縁部材 7、戸先側縁部材 8 及び吊元側縁部材 9 は、薄板状であるため、玄関ドア 1 の表面から大きく突出することはなく、玄関ドア 1 の意匠性が損なわれることはない。さらに、上側縁部材 6、下側縁部材 7 及び戸先側縁部材 8 は、ガラス板 4 を係止してドア本体 3 に固定する機能も有するため、ガラス板 4 の剥がれも防止される。ガラス板 4 は接着層 5 によってドア本体 3 に接着されているため、各縁部材 6 , 7 , 8 , 9 の表面当接板部 6 1 , 7 1 , 8 1 , 9 1 は、極限まで細幅に形成できる。そのため、各縁部材 6 , 7 , 8 , 9 が玄関ドア 1 の意匠性に与える影響を極力抑えることができる。
30

【 0 0 4 0 】

吊元側縁部材は、ガラス板 4 の吊元側を表裏から挟むように設けられるものに制限されない。例えば、図 9 に示す吊元側縁部材 9 A のように、吊元側の芯材 3 1 の室外側面 3 1 a に、例えば両面接着テープ 9 7 によって接着されてもよい。
40

【 0 0 4 1 】

図 9 に示すように、吊元側縁部材 9 A は、中空状の角型材からなる縁部材本体 9 5 を有する。縁部材本体 9 5 の室外側面は、ガラス板 4 の吊元側縁部の表面 4 4 b に向けて延出している。これによって、ガラス板 4 の吊元側縁部の表面 4 4 b に当接する表面当接板部 9 6 が形成されている。吊元側縁部材 9 A は、ガラス板 4 を表裏から挟み込まないため、ガラス板 4 の裏面の全面を接着層 5 によって接着することができる。吊元側縁部材 9 A は、ガラス板 4 をドア本体 3 に接着した後に、ドア本体 3 の吊元側に固定することができる
50

ため、吊元側縁部材 9 A の取付作業が容易である。

【 0 0 4 2 】

図 1 に示すように、玄関ドア 1 は、ガラス板 4 の表面に、上下方向に長尺に延びる開閉操作用のハンドル 1 1 を有する。図 1 0 及び図 1 1 に示すように、ハンドル 1 1 の上下両端部には、それぞれ電気錠 1 2 , 1 2 のシリンダー 1 2 1 , 1 2 1 が配置されている。

【 0 0 4 3 】

ガラス板 4 には、シリンダー 1 2 1 , 1 2 1 の位置に対応して、シリンダー 1 2 1 , 1 2 1 の取付穴 4 5 , 4 5 が設けられている。取付穴 4 5 , 4 5 は、シリンダー 1 2 1 , 1 2 1 の外径よりも大径の貫通穴である。シリンダー 1 2 1 , 1 2 1 は、取付穴 4 5 , 4 5 を通して、ドア本体 3 の室外側面である室外板部 3 2 に取り付けられている。この構成によれば、シリンダー 1 2 1 , 1 2 1 は、ドア本体 3 への取り付けの際に、ガラス板 4 の厚みの影響を受けないため、既存品をそのまま使用することができる。

10

【 0 0 4 4 】

ハンドル 1 1 の上下両端部には、それぞれシリンダー 1 2 1 , 1 2 1 を覆うシリンダーカバー 1 3 , 1 3 が取り付けられている。シリンダーカバー 1 3 , 1 3 は、シリンダー 1 2 1 , 1 2 1 及び取付穴 4 5 , 4 5 の全体を覆い隠している。これによって、シリンダー 1 2 1 , 1 2 1 のみならず、取付穴 4 5 , 4 5 も室外側から視認されることはなく、意匠性が損なわれることはない。

【 0 0 4 5 】

以上説明した玄関ドア 1 のガラス板 4 は、ドア本体 3 の室外側面の全面に亘る大きさを有する。しかし、ガラス板 4 は、ドア本体 3 の室外側面の面方向に複数枚に分割されていてもよい。ガラス板 4 は、合わせガラスによって構成されるものに限らず、1 枚のガラス板のみによって構成されてもよい。

20

【 0 0 4 6 】

図示しないが、ドア本体 3 の周辺に配置される面にも、玄関ドア 1 のガラス板 4 と同様の構成を有するガラス板を設けてもよい。例えば、玄関ドアの戸先側に袖パネルもしくは子扉を有する場合、ガラス板は、それらの袖パネル及び子扉の室外側面の全面に接着されてもよい。さらに、ガラス板は、ドア枠の表面に接着されてもよいし、ドア本体 3 の室内側面に、室外側面と同様に接着されてもよい。

【 符号の説明 】

30

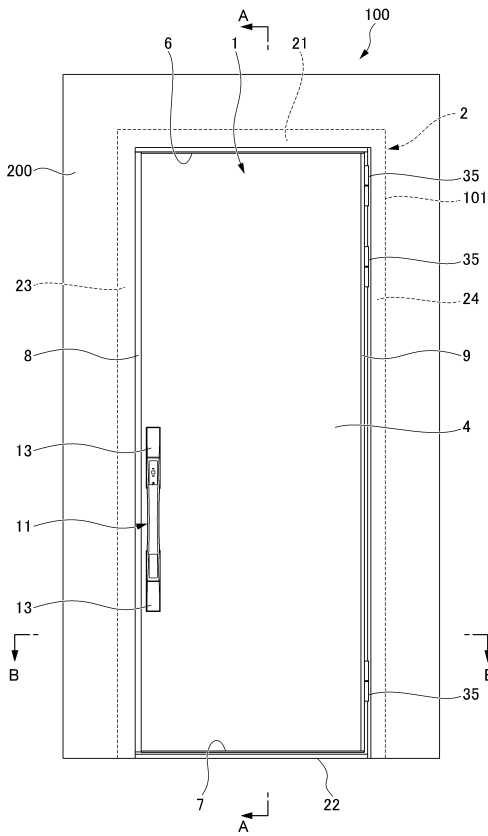
【 0 0 4 7 】

1 玄関ドア、 1 2 電気錠、 1 2 1 シリンダー、 1 3 シリンダーカバー、 2 ドア枠、 3 ドア本体、 3 2 室外板部（室外側面）、 4 ガラス板、 4 0 1 室外側ガラス材、 4 0 2 室内側ガラス材、 4 0 3 意匠シート、 4 1 a , 4 2 a , 4 3 a , 4 4 a 小口面、 4 5 取付穴、 5 接着層、 6 上側縁部材、 7 下側縁部材、 8 戸先側縁部材、 8 1 表面当接板部、 8 2 延出板部、 9 吊元側縁部材、 9 1 表面当接部、 9 2 裏面当接部、 1 0 0 建物躯体、 1 0 1 開口部

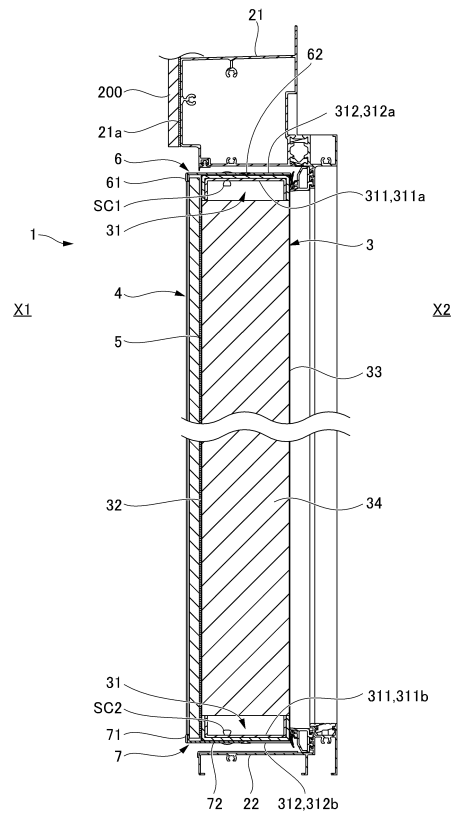
40

【図面】

【図 1】



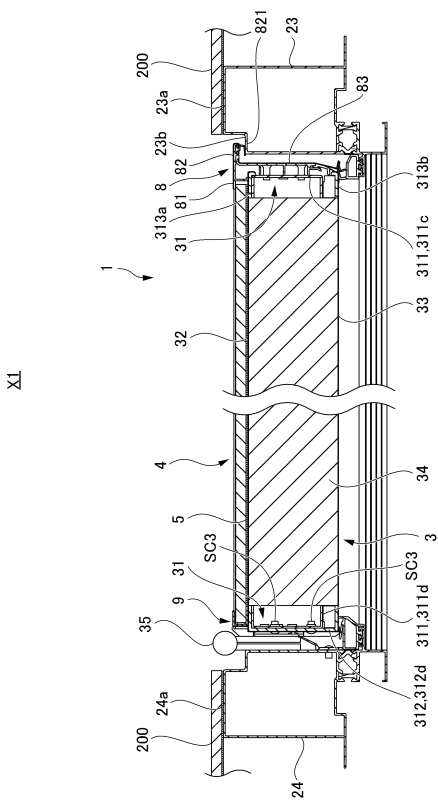
【図 2】



10

20

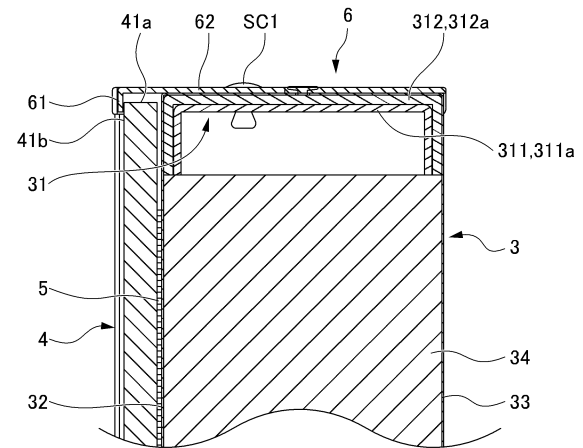
【図 3】



X1

X2

【図 4】

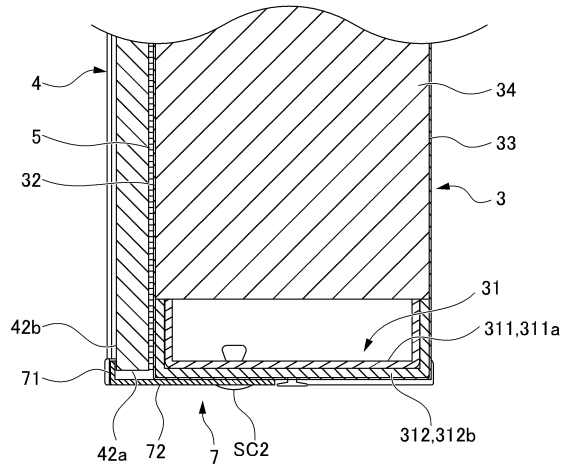


30

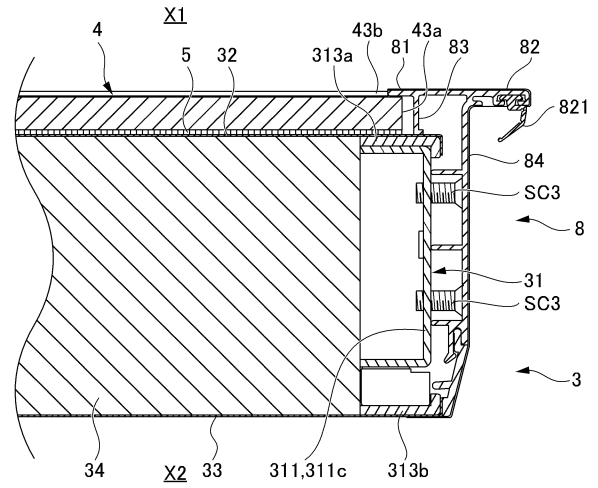
40

50

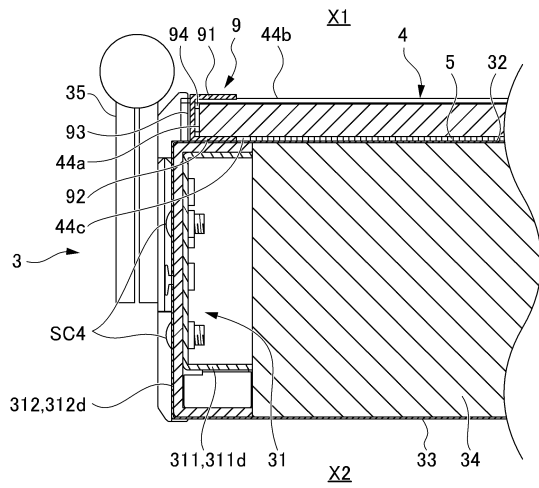
【図 5】



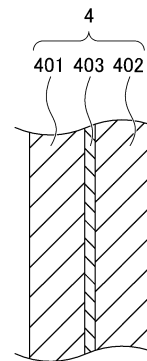
【図 6】



【図 7】



【図 8】



10

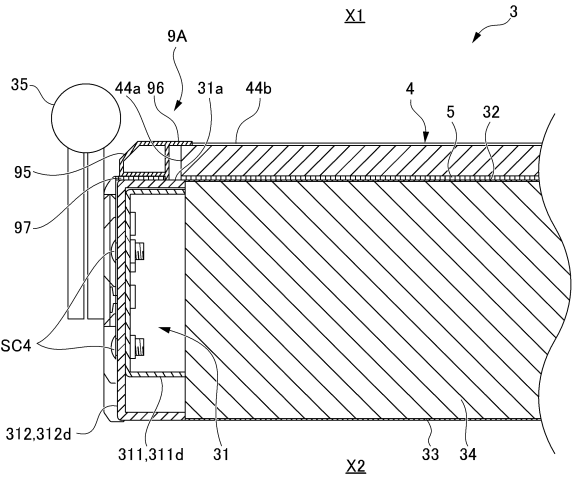
20

30

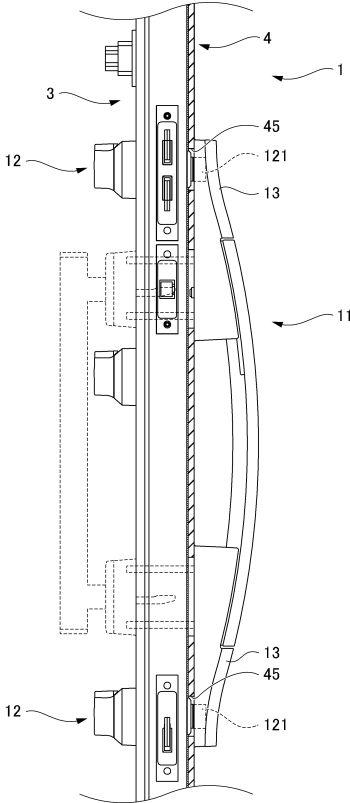
40

50

【図 9】



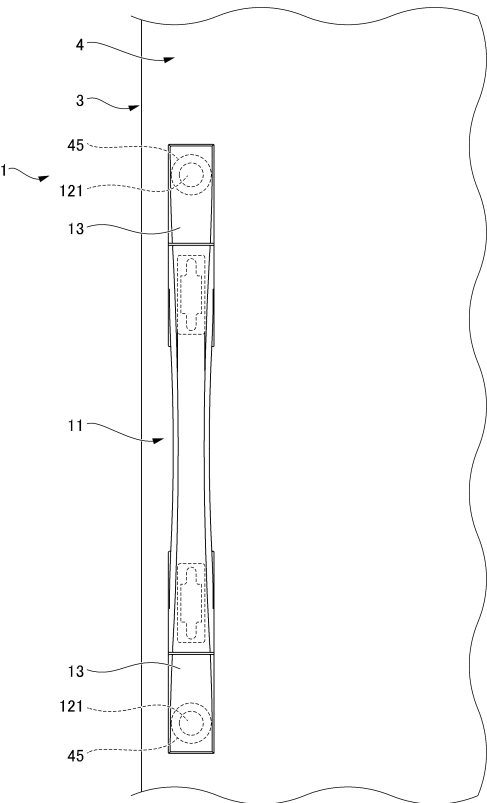
【図 10】



10

20

【図 11】



30

40

50

フロントページの続き

- (72)発明者 井手 隆雄
東京都江東区大島二丁目 1 番 1 号 株式会社 L I X I L 内
- 審査官 櫻井 茂樹
- (56)参考文献 特開 2 0 0 1 - 1 7 3 3 2 3 (J P , A)
特開 2 0 2 0 - 1 5 8 9 7 3 (J P , A)
特開 2 0 1 7 - 0 2 5 5 5 5 (J P , A)
特開平 0 9 - 0 1 3 8 2 6 (J P , A)
特開 2 0 2 0 - 0 2 9 6 8 3 (J P , A)
特開 2 0 0 9 - 0 2 4 4 5 8 (J P , A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
E 0 6 B 3 / 0 0 - 3 / 9 4
E 0 5 B 4 7 / 0 0